

地域母子保健福祉情報紙 No.258

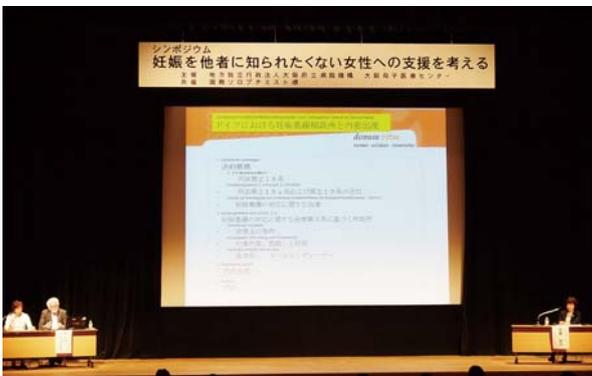
公益社団法人 母子保健推進会議

# 親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）  
国及び地方自治体  
関係諸団体と連携協力して  
母子保健の重要性を啓発し  
母性の健康を守り たかめ  
心身ともに健全な児童の  
出生と育成に寄与してまいります

## 妊娠を他者に知られたくない女性への支援を考える シンポジウム開かれる



講演するヘレンバルト先生、右は座長の佐藤先生

本の取り組みに焦点を当てた午後の部（自治体保健師等専門職対象）に150名が参集、この課題に対する関心の高さがうかがわれた。また午前の部には、中高生とその親など家族での参加も見受けられた。

出産によるキャリアプランへの影響や中期中絶、母体への負担など懸念される。たとえ望まれない妊娠があったとしても望まれない命はない。日本には特別養子縁組や里親など新しい命をつなげる制度もある。今後は、若年妊娠に対する手厚い支援も必要である。

### 講演Ⅱ「思いがけない妊娠の相談窓口“にんしんSOS”と10代の妊娠」

大阪母子医療センター母子保健情報センター

顧問 佐藤拓代 先生（本会議会長）

はじめに、言葉の定義について整理しておきたい。「望まない妊娠」という言葉が厚生労働省を中心に使用されてきたが、「望まない」という意味が子どもに向けられてしまう可能性があることから、昨年「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第13次報告）」より『予期しない妊娠』という言葉を使用することとなった。妊娠を認識したときは出産を望んでいなくても、支援や周囲の関わりによって出産に向かう可能性があることも踏まえた変更である。

生後0日目の新生児遺棄死・虐待死の背景に他者に知られたくない妊娠があることは、日本のみならず世界中で認識されている。この根本的な解決には、女性が匿名で相談できる妊娠SOS相談窓口が非常に重要である。

### 【午前の部】

#### 10代の思いがけない妊娠を考える

#### 講演Ⅰ「奇跡のそばにいるということ」 大阪母子医療センター

新生児科診療主任 今西 洋介 先生

クリニックラウン（臨床道化師）によるオープニングに続き、漫画・ドラマ「コウノドリ」のモデルの一人ともなった今西先生が、新生児科医療や若年妊娠に関する概要を紹介した。

日本の新生児医療は世界の中でも最先端の技術とケアを誇り、新生児死亡率が最も低く、超低出生体重児の予後も良いとされている。一方で、若年妊娠に関しては課題も多く、

平成30年7月7日（土）、国際障害者交流センタービッグ・アイ（大阪府堺市）において、シンポジウム「妊娠を他者に知られたくない女性への支援を考える」が開催された（主催：大阪母子医療センター、共催：国際ソロプチミスト堺、後援：大阪府、本会議等）。今般のシンポジウムでは、「妊娠を誰にも知られたくない、なかつたことにしたい」と悩む女性や中高生に対する支援を他国の事例から学ぶことを目的として開催された。当日は、あいにくの豪雨にもかかわらず、午前の部（中高生含む一般の方対象）に250名、海外や日

### 今月のページ

- 妊娠を他者に知られたくない女性への支援を考える～シンポジウム開かれる～ …… 1～4
- 親の気持ちに寄り添い、地域で見守る子育てを～佐賀県母推研修会から～ …… 5
- 紙上セミナー：8020の里づくり「小児のおやつについて」 …… 6～7
- 妊娠期から子育て期の家族を支えるために必要な視点と技術 …… 8  
～ネウボラの面接とその人材養成から学ぶ～／編集帖